

浮世絵の中の窓

——「ARC 浮世絵・日本絵画ポータルデータベース」を活用したモチーフ研究の試み

竹中 悠美(立命館大学大学院先端総合学術研究科 教授)

E-mail kyt24142@pl.ritsumei.ac.jp

1. はじめに

本稿では、筆者がアート・リサーチセンター(以下ARC)で進めている共同研究プロジェクト「東アジアの〈家〉における芸術文化の国際的総合研究」で、筆者自身が行っている研究内容の一部を紹介する。このプロジェクト名に含まれる「家(イエ)」とは、家屋にとどまらず、家族、家系、家業、さらには疑似家族的集団や統治制度の単位にまで及ぶ多義的な概念であり、その多義性は東アジアの漢字文化圏で概ね共有されている。そこで、国外の研究者とも連携を深めながら、プロジェクト・メンバーと分担して「家」と呼ばれる私的で閉ざされがちな領域で営まれてきた、芸術文化の享受や実践、創造の諸相を、国際的かつ学際的な視座から照射しようとするものである。¹⁾

その一端である本研究は、浮世絵に描かれた窓を主題とする。江戸後期から明治初期まで、都市大衆文化の中心的視覚メディアであった浮世絵には、どのような窓が描かれ、登場人物や場面もしくは風景とどのような関係を持ち、何を表象しているのだろうか。これまで西洋の美学と美術史学で近現代美術を研究対象としてきた筆者にとって、浮世絵への字義通りの「窓」となっているのが「ARC 浮世絵・日本絵画ポータルデータベース」と「古典籍データベース」で、本研究は、デジタルアーカイブの構築と公開における本センターの研究成果と基盤インフラを活用することから始まっている。よって本稿は、データベースの膨大なイメージ群とメタデータを、データ・サイエンスの知識が乏しい初学者が利用した場合の限界と課題も示すものである。

2. 絵の中の「窓」というモチーフの理論的枠組

西洋美術史において「窓」というモチーフは、ルネサンス期にアルベルティが絵画を「開いた窓」と喩えたことから近代絵画理論の根幹を成してきた概念である。それは幾何学的遠近法の成立と結びついて、西洋絵画の視覚構造を規定してきた。また、この概念は、画面と世界の分離、垂直の絵を正面から眺める観者の身体配置を前提とする点で、近代的視覚経験の基礎を成している。つまり、窓は、単なる図像モチーフを超え、絵画から写真や映像といった新しい視覚メディアの構

造を分析する際の理論的装置としても展開されてきた。とりわけ近代以降の美術理論や視覚文化論においては、フレーミングや視線の制度性、画面と現実との関係を問う際の有効なメタファーとして用いられ、しばしば「鏡」と対をなす概念として論じられてきた。こうした議論は、見る条件そのものを可視化する点に理論的意義をもつ。

近年、日本でも窓を主題として、建築・美術・文学・哲学を横断しながら思想史や社会史を論じる書籍の刊行が続いており、窓は単なる建築要素や図像の細部ではなく、思考の枠組として再定位されている。²⁾ こうした先行研究を踏まえつつ、筆者は美術史における様式論・意味論・視覚論を横断する立場をとる。すなわち、浮世絵作品の画面構成や表現形式の特質、窓に付与された役割と意味を中心として、さらに制作や受容を取り巻く社会的・制度的文脈を統合的に考察することを目指している。

もともと、西洋美術史において形成された「窓」の理論を、安易に浮世絵に適用することはできない。蘭画や中国の年画を通じて浮世絵に導入された遠近法に関する先行研究には蓄積があるが、作品数は相対的に限られている。むしろ、建具の取り外しや可動性が高い日本家屋の特徴は、内外の空間が相互貫入する流動性と開放性にあるという点だけに注目しても、西洋的な固定的視点とは異なる空間経験と視覚経験が形成されてきたことに疑いの余地はない。また、障子や簾に代表される「透光不透視」³⁾の仕切りが生み出す光と影の効果と、それに対する感受性も絵の中の窓の表象に映し出されている。本研究は、こうした建築構造や素材がもたらす感覚的条件にも注意しながら、浮世絵に描かれた窓を見ることで、日本美術における視覚的表現の特質を確認していきたい。

3. データベースを用いた作品抽出の方法

「ARC 浮世絵・日本絵画ポータルデータベース」から窓が描かれた浮世絵の事例を抽出するために、まずは「窓」をキーワードにしたクイック検索を行うと、メタデータから現時点で270件の作品がヒットする。「絵師名」「落款」「配役名」の項目内の語彙のみが該当するデータを除き、「画題」、「演目名」、「系統分類」の項目で

該当するデータから窓が描かれた作品が重複を除いて 69 件見つかった。そこから、本データベースに実装されている「類似画像検索」を行い、窓が描かれている作品データを閲覧して抽出した。さらに「薨」「障子」「簾」という関連語でも同様の検索を繰り返したうえで、窓や関連モチーフを複数描いている絵師で、全作品データ数が 3,000 以下の絵師は全作品画像を閲覧して対象となる作品を抽出した。

なお、本調査では「窓」を、光・空気・音と窓より小さい物が通過でき、人が身を乗り出せることもあるものの、基本的に入りはできない開口部として限定した。実際には、開口部の底辺と壁あるいは床との接地面が描かれていない事例や、描写に曖昧な部分があって、張り出し窓か物見縁かなど、判別し難い事例も少なからずあるため、明確に窓と判断できるものだけに限定した。また、名所絵など景観の一部として、中景から遠景に描かれた建物に付属する窓の事例は除外した。

その結果、現時点で絵師約 30 名による約 270 件の錦絵に窓が確認できた。特に作例が多いのは、鈴木春信(1725 頃-1770)33 点、揚州周延(1838-1912)29 点、勝川春潮(生没年不明)27 点と彼を含めた勝川春章の一派が計83点で、これだけで抽出データの半数以上を占める。以下、勝川春章(1726/43-1793)15 点と歌川国貞(1786-1865)14 点が続き、その他の絵師は 10 点以下であったため、窓を多く描く絵師をひとまず絞りこむことができた。次節でその代表例を紹介する。

4. 浮世絵の中の窓の代表例、その分類と分析

4-1. 役者絵の背景の窓——勝川春章一派

「ARC 浮世絵・日本絵画ポータルデータベース」の錦絵において窓の描写が集中的に確認できたのは、勝川春章と、その門徒である春好、春英、春朗、春潮ら勝川派の役者絵である。彼らの作品に共通するのは、壁を背にした役者の立ち姿という比較的シンプルな構図で、壁に配される窓は丸窓、下地窓、火灯窓、油障子の薨など種類に富む。一見すると屋体の一部を思わせるが、演目や役柄と窓との直接的な関係は希薄である。また、どの役者も窓に目をやることはなく、窓が開かれている場合も、樹木が描かれているにとどまる。

しかし、絵の内部には図像的秩序が形成されていて、窓はその要素となっている。たとえば、春章が三代目瀬川菊之丞(図1・制作年不明)の着物は、家紋の結綿に加えて格子模様が背景の下地窓の格子と対応しているなど、細かなモチーフの反復と呼応が随所に見られる。

【図1】大英博物館 1915, 0823, 0. 504



また、五代目市川団十郎を描いた図2(1773 頃)でも、窓の外の老松、壁の下部の松林、そして役者の着物には菰が巻かれた松と、遠景・中景・近景で松の図柄が反復されている。

【図2】ボストン美術館 21. 4110

このような役者絵は、役を演じる役者を描きながらも、絵看板のように芝居の一場面を三次元的に再現するものではなく、かつ、大首絵のように役者の似顔を無地で平面的な背景に配置するのとも異なっている。だとすれば、春章一派は、二次元と三次元の間という意味での二・五次的な浅い奥行きを持つ独自の「役者絵」を定式化していたと見なせるかもしれない。背景に描かれた窓は、装飾的役割だけではなく、平面的な見た目でありながら、その背後に別の空間を暗示するモチーフとして、独自の絵画空間形成を特徴づける要素としても機能していたと考えられる。

4-2. 境界であり通路でもある窓——鈴木春信

錦絵の考案者とされ、勝川春章にも強い影響を与えた鈴木春信は、さまざまな場面において窓を描いている。勝川派の役者絵と大きく異なるのは、春信の作品における窓が、描かれた人物に深く関わる「境界」を表象していると思われる点である。

図3の「見立葛の葉」(1765)では、女が塀の丸窓から外をのぞくと、川の水面上には狐という女の本性が映っていて、窓を介して人間の世界と自然の世界が対置されている。他方でこの窓は、化粧で素顔も本心も隠すことで、花街に生きる女たちの姿を映し出す鏡のようにもとれる。

【図3】ボストン美術館 21. 4987

春信の作例には格子窓の中に描かれた遊女も多い。



左【図4】立命館 ARC arcUF0015



右【図5】シカゴ美術館 1925. 2116.

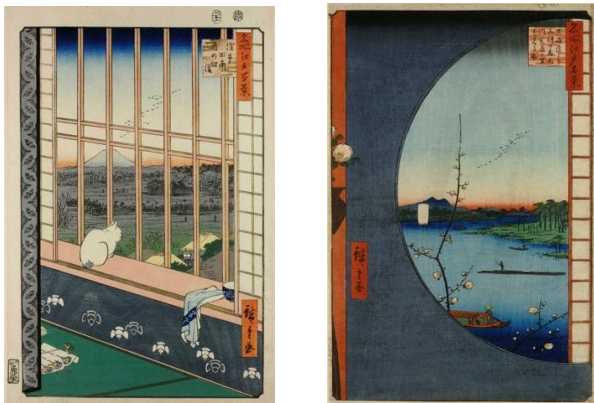
図4(制作年不明)は、窓の外に中を覗き込む男たち、窓の内側に彼らの眼差しから目を背ける新造と、励ますようにその肩を抱く遊女を描いている。堅固な格子窓は男たちから注がれる眼差しの通路であると同時に、彼らと遊女たちの身分と境遇の隔たりを具体化した境界でもある。対照的に、図5の「浮世美人 寄花」(1763-1774)では、品川遊郭の室内と、船が行き交う

広大な海とが細い格子窓によって隔てられている。⁴⁾ 煙管を手に海を眺める遊女の傍らで、窓から望遠鏡を突き出して見入っている禿には、郭の外に広がる世界への思いが表われている。

ここで取り上げた春信の窓は、いずれも壁に固定されて可動性に乏しい。窓が人の移動を制限することで、窓を通り抜けることができる眼差しの強度はかえって増し、窓の内と外の社会的差異と人物の心理的差異を可視化して、春信の絵に物語的深度を与えている。

4-3. 風景への入口としての窓——歌川広重

斬新な視角による風景表現で知られる歌川広重(1797-1858)の『江戸名所百景』(1856-1858)全 118 点のうち、本研究が求める「窓」の絵に該当する作品はわずか2点にとどまる。だが、図6「浅草田甫 酉の町詣」(1857)と図7「真崎辺より水神の森内川関屋の里を見る図」(1857)の窓の大きさは他に類を見ない。



左【図6】大英博物館 1906, 1220, 0. 664

右【図7】大英博物館 1948, 0410, 0. 66

特に、丸窓を画面の端で切り取る構図は春信の図4のように他の絵師も用いているが、画面右端と障子窓で半円に切り取られた窓が、正面にある図7のシンプルで幾何学的な構図は強いインパクトを持つ。なおかつ、人氣がなく薄暗い室内自体が、望遠鏡やカメラ・オブ



スクーラを覗いて見える景色を想起させなくもない。『江戸名所百景』には、低いアングルから近景のクローズアップと遠景を強く対比させ、亀を吊り下げた桶の持ち手があたかも窓枠のように景色を切り取る図8の「深川萬年橋」(1857)のような作例もあって、こちらは小型カメラを低く構えることで撮影可能となるような先取的な視覚を感じさせる

のである。

【図8】大英博物館 1948, 0410, 0. 70
しかし、先行研究も指摘するように、広重において近景と遠景は断絶されてはいない。⁵⁾ 図7では、遠景の

白帆の船から中景まで小舟がぼつぼつと連なり、窓を挟んで白梅と室内左端の柱に掛けられた白樫が呼応することで、内と外は緩やかに接続されている。さらに、そのような連続性の向きは反転するにも感じられる。この絵に向き合うと、われわれ鑑賞者はこの絵の外に居ながら、部屋の中に居て、半分開かれた窓から部屋の外へと誘われ、川の向こうへ、窓を水平に二分する地平線の筑波山の彼方へと、視線がまっすぐに伸びていくような経験を得るのである。

5. おわりに

ここまで、ごく限られた事例の紹介ではあるが、浮世絵の中の「窓」には、単なる建築的細部にとどまらず、図像的秩序を伴った絵画空間を形成する要素として描かれているものがあり、登場人物と場所における社会的・心理的境界を可視化するもの、名所絵の視覚表現の革新とも密接に関わっているものがあることを確認した。

本研究はなお端緒にあり、抽出された約270件の事例だけでなく、拡張を続ける「ARC 浮世絵・日本絵画ポータルデータベース」の十分な活用にはほど遠い。今後は、本稿では扱わなかった「ARC 所蔵古典籍データベース」に収録されている絵本や書籍挿絵の調査も視野に入れ、翻刻検索で千件以上確認される「窓」の語を手がかりに、浮世絵師による挿絵と本文との照合、さらには同時代文学との連関を検討していきたい。こうした作業を通じて、視覚的想像力と文学的想像力が交差する場としての浮世絵研究へと、本研究の射程を拡げることを目指す。

[注]

- 1) 2023年11月と2025年10月にARCが研究協力協定を結んでいるベルリン自由大学東洋美術史研究所の研究者と開催した国際ワークショップを中心にして、これまでの研究成果をARCの英語版ジャーナルと紀要に発表していく予定である。
- 2) 浜本隆志『「窓」の思想史：日本とヨーロッパの建築表象論』筑摩書房、2011年。
五十嵐太郎『窓へ：社会と文化を映し出すもの』日刊建設通信新聞社、2013年。
荻野昌利『窓から何が見えるか：西洋美術文化史と「窓」のイコノロジー』彩流社、2024年など。
- 3) 長谷川堯・黒川哲郎『建築光幻学：透光不透明の世界』鹿島出版会、1977年、96頁。
- 4) 副田一穂「江戸時代の望遠鏡と拡張された視覚の絵画化」『研究紀要』愛知県美術館編、20号、2013年、25-52頁。
- 5) 神山明「広重の絵画空間(3)『名所江戸百景』

における奇抜な構図の特質について』『図学研究』41号、2007年、109-114頁。

[挿図 URL]

【図1】 https://www.dh-jac.net/db/nishikie/BM-1915_0823_0504/portal/

【図2】 <https://www.dh-jac.net/db/nishikie/MFA-21.4110/portal/>

【図3】 <https://www.dh-jac.net/db/nishikie/MFA-21.4987/portal/>

【図4】 <https://www.dh-jac.net/db/nishikie/arcUF0015/portal/>

【図5】 <https://www.dh-jac.net/db/nishikie/AIC-1925.2116./portal/>

【図6】 https://www.dh-jac.net/db/nishikie/BM-1906_1220_0664/portal/

【図7】 https://www.dh-jac.net/db/nishikie/BM-1948_0410_0066/portal/

【図8】 https://www.dh-jac.net/db/nishikie/BM-1948_0410_0070/portal/

(2026.2.1 現在)